

【九州大学芸術工学部 芸術工学科 メディアデザインコース】(2021年度以降入学者)

1) ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

教育の目的

メディアデザインコースは、メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、数理科学的知識、人間の心理や知的財産に関する知識、芸術と文化に関わる基礎知識を習得し、デザイン、コンテンツ創成に関する基礎的な表現ができる人材を養成し、次の教育目標を達成した者に、芸術工学の学位を授与する。

- ・メディアとコミュニケーションのデザインによって、新しい表現を創出しようとする関心と意欲を有する。
- ・メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、そのデザインや研究領域に応用できる数理科学的知識、人間の心理や、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる知識を有する。
- ・メディアとコミュニケーションのデザイン、コンテンツ創成に必要な表現能力、およびプログラミング能力を有する。
- ・好奇心を持って対象を観察し、その結果を構成し、様々なメディアを使って表現する能力を有する。

参照基準

Subject Benchmark Statement-Art and Design

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/sbs-art-and-design-17.pdf?sfvrsn=71eef781_16

Subject Benchmark Statement- Law

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/subject-benchmark-statement-law.pdf?sfvrsn=b939c881_16

Subject Benchmark Statement-Communication, Media, Film, and Cultural Studies

https://www.qaa.ac.uk/docs/qaa/subject-benchmark-statements/subject-benchmark-statement-communication-media-film-and-cultural-studies.pdf?sfvrsn=28e2cb81_4

到達目標

- A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。
- A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。
- A-3. 文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収することができる。
- B-1. (知識・理解) 理系ディシプリン、教養・専門基礎、リメディアルの3つを意識した科目を通して、知識を使える力を備えることができる。
- B-1-2. デザインリテラシー。芸術工学の基盤となる具体的知識や概念、考え方、方法について理解し、コースごとの専門にとどまらない普遍的なデザインのリテラシーを説明することができる。
- B-1-3. メディアデザインの概念、及びその体系について理解し、説明できる。
- B-1-4. メディアデザインに関わる人間の知覚、言語、文化、知的財産の保護・流通について理解し、説明できる。
- B-1-5. メディアデザインにおけるデジタル技術の活用について理解し、説明できる。
- B-1-6. メディアデザインにおける創造的な活動について理解し、説明できる。

- C-1. (国際) デザイン一般、及び専攻する分野の理論や知識、スキルを英語で学ぶことで、世界における先端的なデザイン活動に参画することができる。
- C-1-1. (適用・分析) メディアデザインに関わる人間の知覚、言語、文化、知的財産に関する知識を活用して、メディアとコミュニケーションに関わる事象を定量・定性的に分析し、批判・検証することができる。
- C-1-2. メディアデザインにおけるデジタル技術を活用して、メディアとコミュニケーションに関わる事象を定量・定性的に分析し、批判・検証することができる。
- C-1-3. メディアデザインにおける創造的な活動についての知識を活用して、メディアとコミュニケーションに関わる事象を定量・定性的に分析し、批判・検証することができる。
- C-2 融合: 異分野との協働を通して専門知識を総合的に活用しながら、社会の複合的な課題を発見・提起し、解決することができる。
- C-2-1. (評価・創造) メディアデザインに関わる人間の知覚、言語、文化、知的財産に関する知識を活用して、メディアデザインに関する具体的な課題解決を実践することができる。
- C-2-2. メディアデザインに関わる人間の知覚、言語、文化、知的財産に関する知識を活用して、メディアデザインに関する情報を取捨選択しながら統合して新たな知見を生み出すことができる。
- C-2-3. メディアデザインにおけるデジタル技術を活用して、メディアデザインに関する具体的な課題解決を実践することができる。
- C-2-4. メディアデザインにおけるデジタル技術を活用して、メディアデザインに関する情報を取捨選択しながら統合して新たな知見を生み出すことができる。
- C-2-5. メディアデザインにおける創造的な活動についての知識を活用して、メディアデザインに関する具体的な課題を解決することができる。
- C-2-6. メディアデザインにおける創造的な活動についての知識を活用して、メディアデザインに関する情報を取捨選択しながら統合して新たな知見を生み出すことができる。
- D-1. (実践) 論理的な思考能力と芸術的感性あふれる表現能力を併せ持ち、メディアとコミュニケーションに関する問題を科学的かつ文化的視点で捉え、新しいメディアテクノロジーを応用し、変化する社会状況を踏まえた新時代のメディアデザインを切り拓こうとすることができる。

2) カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づき、本コースでは別表 (カリキュラム・マップ) の通り、教育課程を編成する。

カリキュラムは三つの分節に区分して運用する。

第1分節 (1年～2年前半) は、基盤的な学びの姿勢と知識・理解を習得する「導入・基礎」期、第2分節 (2年後半～3年) は発展的な知識・理解およびその活用力を習得する「発展」期、第3分節 (4年) は知識・能力の統合と新しい知識の創出に取り組む「統合」期と位置づける。

第1分節「導入・基礎」期では、アクティブ・ラーニングを重視する科目 (基幹教育セミナー、課題協学)、ICT 国際社会に必要な能力の向上を目指す科目 (サイバーセキュリティ基礎論)、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目 (学術英語、初修外国語)、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目 (専門英語)、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目 (文系ディシプリン、理系ディシプリン)、ライフスキルの向上を目指す科目 (健康・スポーツ)、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目 (総合、高年次基幹教育) などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働 (A-1、2)」

を培う。その上で芸術表現やプログラミング言語、コミュニケーションに関わる基礎的な知識を習得させるための教育科目を配置する。

その基盤の上に、第2分節「発展」期では、メディア表現、メディアインタラクション、メディアコミュニケーション学の3つの科目群を配置する。講義型/演習/実験/実習・実技型の専門基礎科目/専門科目を通し、メディアとコミュニケーションのデザインや研究に応用できる数理的な知識、人の心理に関わる知識、知的財産の保護・流通、芸術と文化に関わる専門的知識を習得させ、それらの知識を基に関連分野の事象を評価・分析できるようにする (B-1、C-1)。さらに、習得した知識を前提とした評価・分析能力を通じて、メディアデザインに関する具体的な課題解決を实践、さらに、メディアデザインに関する情報を取捨選択しながら統合して新たな知見を生み出すことを可能とする (C-2)。

そして、第3分節「統合」期では、卒業研究を通じて、これまで習得した知識を体系化すると共に、論理的思考能力に基づいた表現能力を養う (D-1)。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み (内部質保証)】

学修目標の達成度は、以下の方針 (アセスメント・プラン) に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性がないかをコースの下に設置するカリキュラム検討WGにおいて検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- ・第1分節「導入・基礎」期の評価：基礎科目に係る必修科目の単位取得状況、成績評価を総合的に評価する。
- ・第2分節「発展」期の評価：学年ごとの単位取得状況・成績分布の分析と併せ、卒業要件の達成状況 (単位取得状況、成績評価) に基づいて、第1分節から第2分節を通じた全体的学修成果を評価することで、知識・能力の習得状況を確認する。特に、「メディアデザイン総合プロジェクトⅠ・Ⅱ」において学生との個別の質疑応答を行い、学修目標の達成度の確認を行う。
- ・第3分節「統合」期の評価：卒業論文、単位修得状況、成績評価、就職状況、大学院進学率等によって、ディプロマ・ポリシーで求める必要な能力の達成度を確認する。

3) アドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

求める学生像

国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

その中でメディアデザインコースでは、次のような資質、意欲・関心を備えた学生を求めている。

1. メディアとコミュニケーションに関わるデザインと芸術的表現に強い意欲を有する。
2. メディアとコミュニケーションに関わるデザインの知識、数理科学的知識、人間の心理や知的財産に関する知識、芸術と文化に関わる知識を習得するために必要な基礎学力を有する。
3. メディアとコミュニケーションに関わるデザイン、コンテンツ創成に関する基礎的な表現能力を有する。

求める学生像と学力3要素との関係

- ① 知識・技能：高等学校等における理系分野の基礎的教科・科目の履修を通してメディアデザインの教育を受けるうえで必要な基礎的学力を有している。特に上記の求める学生像の2.に対応している。
- ② 思考力・判断力・表現力等の能力：メディアとコミュニケーションに関わるデザインを客観的に捉え、創造的に実践するうえで必要な論理的思考能力と、基礎的な表現能力を有している。特に上記の求める学生像の3.に対応している。
- ③ メディアとコミュニケーションに関わるデザインと芸術的表現への強い関心：多様な価値を尊重し、様々な創造的表現に関心を有している。特に上記の求める学生像の1.に対応している。

入学者選抜方法との関係

| | ①知識・技能 | ②思考力・判断力・ 表現力等の能力 | ③メディアとコミュニケーションに関わるデザインと芸術的表現への強い関心 |
|-------|----------------------------|----------------------|-------------------------------------|
| 一般選抜 | 調査書 大学入学共通テスト 個別学力検査 | 個別学力検査 | 調査書 |
| 総合型選抜 | 調査書 大学入学共通テスト | 実技 | 調査書 志望理由書 |

| 学修目標 | | | 1年生 | | | | 2年生 | | | | 3年生 | | | | 4年生 | | | |
|------------|---|--|--|----|----|-----------|------------------|----|----|----|-------------------|----|----|----|-----|----|----|----|
| 区分 | 領域 | 学士課程 | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| 主体的な学び・協働 | | A-3. 文章表現能力、発表能力、及び討議力を持って広く世界と交流し、効率的に情報を発信、吸収することができる。 | | | | | 速習エスベラント、速習オランダ語 | | | | | | | | | | | |
| | | | 【以下の科目は、○選択必修】言語文化科目（第2外国語） ドイツ語IA, IB, ドイツ語IIA, IIB, ドイツ語プラクティクI フランス語IA, IB, フランス語IIA, IIB, フランス語プラクティクI 中国語IA, IB, 中国語IIA, IIB, 中国語実践I ロシア語IA, IB, ロシア語IIA, IIB, 韓国語IA, IB, 韓国語IIA, IB, スペイン語IA, IB, スペイン語IIA, IIB, (留学生向け) 日本語I, 日本語II, 日本語III, 日本語IV | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 【以下の科目は、○選択必修】言語文化科目（第2外国語） 学術英語A・リセプション、学術英語A・プロダクション、学術英語B・インテグレイト、学術英語A・CALL、学術英語B・CALL、学術英語C・集中演習 学術英語・アカデミックイシューズ、学術英語・グローバルイシューズ、学術英語・プロダクション1、学術英語・プロダクション2、学術英語・CALL1、学術英語CALL2 | | | | ○専門英語 | | | | ○専門英語 | | | | | | | |
| | A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたること | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。 | 自コース演習 (PBL) 科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 自コース専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 他コース演習 (PBL) 科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 他コース専門科目 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ◎健康・スポーツ科学演習 | | | | ◎課題協学科目 | | | | | | | | | | | | |
| | | フロンティア科目、オープン科目 | | | | 高年次基幹教育科目 | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| 学修目標 | | | 1年生 | | | | 2年生 | | | | 3年生 | | | | 4年生 | | | |
| 教育課程の時期区分 | | | 導入・基礎期 | | | | 発展期 | | | | 統合期 | | | | | | | |
| アセスメント・プラン | | | 達成度調査（専門力）その1 | | | | 達成度調査（専門力）その2 | | | | 卒業研究の審査【共通ルーブリック】 | | | | | | | |

| | | |
|--------|-----|-----|
| 導入・基礎期 | 発展期 | 統合期 |
|--------|-----|-----|